

「小笠原研究年報」投稿要領

原稿は1行36文字、1ページ31行とする（A4横書）。

原稿の体裁

表紙には、タイトル、著者名、著者のローマ字表記、著者の連絡先（住所、電話番号、ファックス番号、E-mailアドレス）を記入する。

本文の1ページ目の1行目にタイトル（中央揃え）を書く。2行目は空白とし、3行以後に著者名（所属）を記入する（共著者が3名の場合は3～5行目に記入）。著者名（所属）の後に空白行を1行入れる。

本文中の見出しは以下のようにする。

要約

I. はじめに

II. 材料と方法

1. 調査地の概要

さらに細かい小見出しは著者にまかせる。

本文中ではカンマとピリオド（, .）ではなく句読点（。、）を使用する。

要約は300字以内とする。

単位・数量の書き方

例：1/3、10%、15 m、40 km、63 g、3.5 t など、メートル法に準拠する。

本文中での文献の引用の仕方

上付きの1)などは用いない。日本語文献は、著者が2名以下の場合は「伊藤（1993）、内田・松田（1990）によると・・・」、著者が3名以上の場合は「木村ら（1993）によると・・・」のように引用する。文末の（）内での引用は「・・・が知られている（内田・松田、1990；Wilson *et al.*, 1992）。」や「・・・である（上田ほか、1993）」のように引用する（*et al.* はイタリック。（）内の複数文献はセミコロンで区切る）。

欧文文献は、Balford & Thomas（1992）、3名以上はBurleu *et al.*（1982）のように引用する。文末の（）内での引用は、「・・・が知られている（Balford & Thomas, 1992；Wilson *et al.*, 1992）。」のように引用する。

引用文献の書き方

文献の言語にかかわらず第一著者の性をアルファベット綴りした場合の、アルファベット順に並べる。同じ著者名が続いた場合も省略しない。雑誌名やProceedingsのタイトルは省略しない。

・日本語の論文

町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出したテルラーアカホヤ火山灰. 第四紀研究 17: 143-163.

・日本語の報告書

加藤芳郎・宇津川徹 (1981) 父島の土壌. 小笠原諸島自然環境現況調査報告書(2). 東京都, 133-142.

・日本語の単行本

町田 洋・新井房夫 (1992) 『火山灰アトラス』東京大学出版会、276p.

・日本語の単行本の一部

黒田 直 (1992) 土壌. 小笠原自然環境研究会 (編) 『フィールドガイド小笠原の自然-東洋のガラパゴス』古今書院, 46-51.

・欧文の論文

Aubry MP, Berggren WA & Kent DV (1988) Paleogene geochronology; an integrated approach. *Paleoceanography* 3: 707-742.

雑誌のタイトルはイタリックにする。

・欧文の報告書

Olsen RR & Cameron JL (1993) Larval development of the pencil urchin. *Proceedings of 6th International Echinoderm Conference*, 807p.

報告書のタイトルはイタリックにする。

・欧文の単行本

Fagri K & van der Pijl L (Eds.) (1979) *The Principles of Pollination Ecology*. Pergamon Press. 500p.

本のタイトルはイタリックにする。

・欧文の単行本の一部

Hori R, Pang VPE & Jin LT (1991) *On the pattern of gonadal development of the sea urchin*. In: *Biology of Echinodermata* (Ed. by Yanagisawa *et al.*), 249-255.

本のタイトルはイタリックにする。

表

表は1つずつ別紙に書かなければならない。1つの表は原則として1ページに印刷できる大きさとする。1ページを越える表については2つ以上に分割する。表のタイトルと説明は表の先頭に書く。各表のタイトルと説明は、まず「表1」のように書き、ついで表題を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に、説明を加える。

図

各図ひとつをそれぞれ別紙にして、完全版下でそのまま製版できる状態のものを本文の最後に順番に添付する。カラー図版を希望する場合は事前に編集委員会に相談すること。図の説明は別紙にまとめて書く。各図の説明は、まず「図1」のように書き、ついで表題を挙げたのち、本文

を読まなくとも理解できる程度に、説明を加える。図の作画者や写真の撮影者が著者と異なるときは、そのことを明記し、また必要な場合は、著者においてあらかじめ著作権者の許可を受けておくこと。

投稿と編集

原稿〆切は原則として毎年1月20日とする。原稿の掲載可否は編集委員で決定する。E-mailの添付ファイルあるいはCD-R等で編集委員会宛に送付する。なお添付ファイルの上限は10MBとする。本文はWindows版Microsoft Wordで作成し、1つのファイルにする（一太郎等で作成した場合はWord形式に変換する）。Macintosh版の場合は、Windowsで読める形式に変換する。使用するフォントは、小見出しはMSゴシック、それ以外はMS明朝とする。表はWindows版Microsoft Excelで作成する。複数の表が存在する場合は、表ごとにファイルを作成するか、1つのファイルに別シートとして作成する。図は、画像ファイル（EPS、TIFF、JPEGなどの形式）として作成する。複数の図が存在する場合は、図ごとにファイルを作成する。

校正

原則として初校の校正は著者が行ない、再校以降は編集者が行う。著者校正は印刷上の誤りについてだけ行ない、内容や図表の変更は認められない。

別刷

各報文について50部を著者に無料で提供する。それ以上の別刷を希望する場合は著者負担とする。